

人生は『一期一会』の連続

～燦然と輝く未来を見据えこのときを生きる青年であれ～

公益社団法人立川青年会議所
第53代理事長
岡部栄一さん
若きリーダーのこの半年

本年1月11日。第53代理事長 岡部栄一さんは賀詞交歓会でこう挨拶した。

「一期一会」のこの一瞬を生きる。「一期一会」とは、千利休の「茶会に臨む際は、その機会を一生に一度のものと思ひ得て、主客とともに互いに誠意を尽くせ」といった教えからきた言葉です。私は、「一期一会」というこの漢字4文字の言葉の中に、古来より受け継がれてきた日本人としてのアイデンティティと、自己の利益を考える「自利」のみではなく、他者に想いを馳せる「利他」の精神を併せ持った、日本人の「和の心」が詰まっていると考えます。

「一期一会」の機会を逃して後悔した経験が2度あると語り、「一期一会」とは、まさにこの一瞬一時をいかに大切に考え、他者を思いやり生きていけるかということだと。今の時代になぜ生を享け、なぜこの時代を生きているのか。先の大戦中、今の自分と同じ世代の若者は何を考え、この日本を守ろうとし命を落としていったのか。

そのことを想うとき、私の心に浮かんでくる言葉、それが「使命」であります。「使命」とは命を使うと書きます。運命と言えど何か決められているもののように感じますが、「使命」とは自分の意志で命を使い、道を切り開いていくということだと思います。私の「使命」とは何であるのか、私はなぜ今この時代を生きているのか。そのことを深く考えさせてくれた団体、それが、私が愛してやまないこの青年会議所であります。

1965年に設立された立川青年会議所。「変化」に対応し「進化」するから存在意義があると考え、失敗を恐れず挑戦し続ける団体。青年経済人として、変えてはならないものは「情熱」をもってその伝統を守り、変えなければならないものは「勇気」をもって仕組みや組織を変化させ、判断に迷うときこそ全員の「英知」をもって、議



論を重ね行動に移す。世界中に共通の理念をもった多くの仲間がいるこの組織の可能性は無限大だと語る。

2017年度、立川青年会議所の運動の根底をなすもの、それが「自利」と「利他」を併せ持った日本人の「和の心」と、地球規模で物事を考える「globalism」という考えであります。私達は、古来より日本特有の協調性を重んじ、集団の中で目に見えない相手の心を読み取り、相手に想いを馳せることで波長を合わせ、争うことなく物事を円滑に進め、調和を図ってきました。私は、この「和の心」が満ち溢れた人々が、世界中でその地域を創造することで、今世界に起こっている多くの紛争はなくなると考えます。日本人のアイデンティティである「和の心」を持つことこそが、青年会議所の不変の理念である「明るい豊かな社会の実現」「恒久的世界平和」につながるのです。

青年会議所の組織は単年制。1年で何をどう動かすのか、1日をフルに使うため、家族や仕事、会社に迷惑をかけることもしばしば。しかしそれを岡部理事長は大切な人のために行うもの、自分の子どもであり家族であり、会社の社員であり、それに携わるすべての人のため。大切な人たちを守るために行っていれば、自ずと地域のため、世のため人のためになる、と言い切る。自分の人生はほんのひと時だからこそ、無駄にしないで行動したい。岡部理事長の1年はもう半年過ぎようとしている。どんな結果が出てくるのか、期待はやまない。



岡部さんは大学時代、体育会サッカー部に所属していた。



家にあってはいいお父さん。岡部さんのお父さま(岡部直士氏)は立川サッカー協会会長。



若い工場長と。製麺・茹麺ライン、食材下処理・調理ライン、トッピング・外装ライン、その他にも食材を扱う工場ならではの設備がある。



働いている人の中にはベトナムやネパールから来ている人も多い。365日24時間稼働しているシフト管理も大変だろうと推測される。



トッピングラインで。



立川青年会議所 第53代理事長 岡部栄一氏



職業は、株式会社ヤマラ 専務取締役。主たる取引先のコンビニエンスチェーンの統合で、現在は関東甲信地域まで製造品の配送をしている。